



一般社団法人

ふらっとカフェ鎌倉



～コロナ禍での子どもの居場所を取り巻く状況及び課題～

2022/2/9 代表理事 渡邊公子



(一社) ふらっとカフェ鎌倉とは？



2017年3月設立の一般社団法人。(活動拠点:鎌倉市内全域)

現在 **15**団体・**20**名・協力店舗 **19**店が参画

(子育て・学習支援NPO団体、レストラン・福祉施設経営者・大学教授等)

【事業】

■ 移動式地域食堂「みんなたべ」 (みんなで食べる食堂)

鎌倉市内で「レストラン」「福祉施設」の**定休日**を借り、運営する。
栄養バランスの取れた食事の提供・三世代交流の場をつくる。

■ フードパントリー (食品ロス削減・食糧支援・災害時の必要性も)

■ みんなたべ協議会運営 (多岐にわたる団体との連携や情報共有)

移動式地域食堂「みんなたべ」はどんな場所？

主に店舗の定休日を使い、夕方を中心に開催。

会場ごとにメニューが変わり、学童機能（見守り保育・遊び等）あり。

会を増すごとに食品の寄付が増加、その食材を中心に料理を提供。

場所によっては、料理教室のようにもなり、それを楽しみに来られる方も。

どんな人が参加しているの？

■ 平均参加人数 35～40名（最高：71名）

■ 参加者年齢 0～80歳代（最高年齢88歳）

■ 平均提供料理数 6～9品（最大：14品）

■ 参加者内容（一部）

保育園・幼稚園終わりの親子、小・中・高・大学生
独身男性・一人暮らしの高齢の方 等

■ その他

毎月一回チラシ配布、地域通貨「みんなたべ通貨」運営

カテゴリー: 健康・福祉



ツイート いいね! シェア

寄付金額

2,211,000円

221.1%

目標金額: 1,000,000円

達成率
221.1%

支援人数
97人

終了まで
受付終了

地域食堂の変化（感染症前後での変化）

コロナ感染症前

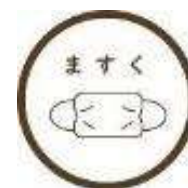
- 2017/3/22～2020/3/18までに計**123**回開催
- 参加者総数 延べ**4596**名（約月**3～4**回開催）
- 固定と変動の場所にて開催（新規協力店舗も年**3～4**箇所増加）

コロナ感染症後

- 2020/4/22～2022/1/26までに計**34**回開催（延べ**157**回）
- テイクアウトの開始（店内人数制限・時間調整実施）
- 平均**25～35**食提供（月**2**回開催）
- 固定**2**か所にて開催（**1**か所新規開催場所あり）

コロナ禍の新しい様式での開催の取り組み

- ① マスクの着用、検温・除菌の実施、3密を避ける席の配置
- ② テイクアウト(お弁当)の実施
- ③ 完全事前申し込み制(事前確認の徹底)
- ④ 店内飲食は人数制限(10名)を設け、時間で区切り入れ替えを実施
- ⑤ 食事の提供は特定スタッフが行う



フードパントリー（食糧支援）の様子



食材に合わせた
調理レシピ

家族構成・環境を
配慮した
詰め合わせ

こまめな支援で
見守り



フードパントリー（食糧支援）の様子

2020年度

- 食糧寄付 **150**件（8/1～12/26） → 年々増加
- 学生コラボデリバリー支援 **39**食（12/13）
- コロナ禍支援で必要な家庭への支援 年**3**回／**10～12**世帯

2021年度

- 食糧寄付 **157**件（1/1～12/28）
→ 企業・学校からの寄付**45**件（毎月複数回寄付をうける企業あり）
- 鎌倉市協働食糧無料配布会 **8**回（1/23～12/26）
→ 平均**100**食（1食 平均**3.5**kg／最大**200**食）
- ひとり親、高齢者、生活困窮世帯への支援 年**12**回／**35～42**世帯
→ 平均**10～12**品（約**12**kg～最大約**20**kg／世帯人数による）
季節や寄付品の内容によって、毎月食品の種類を変更している。

フードパントリー（食糧支援）の様子

■コロナ禍で支援が必要な家庭へ毎月1回公募にて**20~25**世帯に食糧支援を実施。

1回の公募支援で終了せず、個別の支援要請連絡・食材寄付があり次第、**随時配送対応の実施**（月**2~3**回）

こまめな連絡・**特定スタッフによるデリバリー**をすることで、信頼関係（育児相談等）を築けている。

⇒ **自然な見守り・対等な人間関係の構築（継続した関係づくり）**

フードパントリー（食糧支援）の様子

■その他

安定した食糧支援や仕組みを作るため、鎌倉市生活福祉部と連携、**ガバメントクラウド**を実施、目標金額（100万）を大幅に超え**達成**。同時に**市内外・県外**から多くの食材寄付も。（2020/10/1-11/15）

寄付等の増加に伴い、鎌倉市と協働で保管用倉庫の確保、**フードバンク鎌倉**設立準備を進めている。

フードパントリー（食糧支援）の様子

カテゴリー:健康-福祉



朝日新聞 DIGITAL

トップ 社会 経済 政治 国際 スポーツ オピニオン IT・科学 文化・芸術

朝日新聞デジタル > 記事

「困窮世帯に食料を」官民タッグで支援 鎌倉

編集委員 2020年10月20日 10時30分

シェア ツイート フォロワー フォト 印刷



寄付された食材を使ってレストランなどで楽しい食卓会を開き、一人親家庭などを応援してきた鎌倉の団体「ふらっとカフェ」が、鎌倉市の協力でふるさと納税を使った資金集め「カバメントクラウドファンディング」を始めた。コロナ禍以降、「ふらっとカフェ」は従来の食卓会に代え、困窮世帯に食料品を届ける活動を続けていて、集めたお金はそうした資金にする。

寄付金額

2,211,000円

221.1%

目標金額: 1,000,000円

達成率
221.1%

支援人数
97人

終了まで
受付終了

ふらっとカフェ鎌倉が大切にしていること

学べる

平等（対等）であること

（支援側・される側共に）

食べれる

地域住民を巻き込んだ活動

（地域目線と繋がりを大切に）

必要な人に
適切な
サポート

誰と一緒にやるか・巻き込むか

（関係人口増加／他団体とのコラボ）

楽しめる

対面・関わり続けることの大切さ

（循環・次世代育成・継続）

ふらっとカフェ鎌倉が大切にしていること





多くのメディアの協力

⇒掲載によって多くの寄付・支援金をいただく。

朝日新聞デジタル > 記事

「困窮世帯に食料を」官民タッグで支援 鎌倉

鎌倉市 2020年10月20日 10時28分

シェア ツイート フォーマット プリン 印刷



寄付された食材を使ってレストランなどで楽しい食事を開き、一人親家庭などを応援してきた鎌倉の団体「ふらっとカフェ」が、鎌倉市の協力でふるさと納税を使った資金調達で、毎月ドライブレンドの食材を寄付する「ふらっと世帯」を支援する。

鎌倉市の「ふらっと」子ども食堂 鎌倉市役所

余った食品、地域で活躍

24日から寄付を受け

【図説】

「食べきれない」「使う予定がなくなり……。こういった家庭で余っている食品を募り、福祉活動団体に寄付する「フードドライブ」を9月24日（日）から29日（金）まで鎌倉市（初日は受付なし）とNPO法人鎌倉リサイクル推進協議会が協賛事業の一環として実施する。



前掲の「ふらっとカフェ」の様子。

この取り組みは、消費しない生鮮食品を捨ててしまう「食ロス」を減らし、全国で行われているもので、市では2017年から実施されてきた。

市ごみ減量対策によると、使い切れない米、ジャガイモなど、多い時は約60kgの食品が市内で福祉活動を行う（一社）ふらっとカフェにある倉庫「フードバンク」で管理されていく。

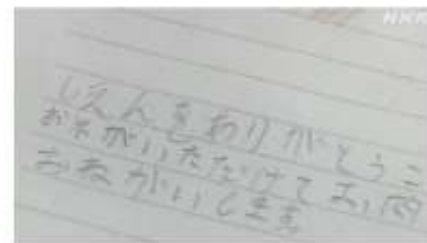
「食を届けた世代間交流の場」とも期待され、月に数回、料理を堪能する活動を行う。寄付で賄っており、渡邊公子代表は「継続して食品のゆがけ、他団体と協力し、市内の小学校区に1か所ずつ増やしていきたい」と話す。

朝日新聞

コロナ禍の子ども食堂 食材配布で見えた厳しい現状

2020年11月10日

共有 共有 共有 共有 共有



「しんをありがとうと書いて、お返しをもらってあげます」

これは、コロナ禍で食料が足りなくなった東京都練馬区の子どもの食堂で、困窮している家庭に食材を無料で配布する取り組みが新たなところ、子どもから受け取った手紙の一枚です。感動を覚えたのは、家庭や仕事の影響で食料不足に苦しむ人たちが集まっている家らしい現状でした。

子ども4人の母子家庭「お米はすぐ

NHK

「ふらっとカフェ鎌倉」の代表を務める 渡邊 公子さん

稲村カ响在住 74歳

シェア ツイート いいね! シェア G+ 1

食でつなく命と地域

〇…全国で広がる「子ども食堂」をヒントに、幅広い世代が楽しい食事をしようと、先月末に第1回が開催された「ふらっとカフェ鎌倉」。これを運営する市民団体の代表を務める、会場は市内の飲食店を借り受け、食材の一部は寄付で賄うなど、すべて市民による手作りなのが特徴だ。週1回の開催をめざし、約20人のメンバーと共に準備に奔走する。「みんなで気軽に楽しく、美味しいご飯を食べる場になりたい」と意気込みを語る。



神奈川新聞

タウンニュース鎌倉

掲載日：2019年5月31日

食で広がる多世代交流の輪

ふらっとカフェが活動3年目

「ふらっとカフェ鎌倉」（渡邊公子代表）が活動3年目に入った。「子ども食堂」にヒントを得ながら、老若男女、誰もが気軽に参加でき、交流を図るこの取り組み、食事はもちろん、読書や配膳、片付けも全員で行うのが特徴だ。



深澤川沿い（市立大）と中井町（海老名）、「せいの亭」の子ども食堂

市内も力所の施設や飲食店を会場に、月に数回開催するほか、思いに賛同した人がノウハウを学び、5カ所で「独立」するほど、活動は広がっている。今春には、各団体が賛助共有などを目的とした協議会が発足。「一人で食べるとか、お店で買ったものばかりといった“食の真実”を無くしたい」。地域代表が掲げてきた「小学校区に1カ所」という目標に少しずつ近づいてきた。

「食事付き寺子屋」目指す 「ふらっとカフェ鎌倉」スタート

2019年10月10日 掲載日：2019年10月10日

シェア ツイート いいね!



鎌倉版「ふらっとカフェ」の活動の様子。写真：ふらっとカフェ鎌倉

子どもから高齢者までの食卓を囲んで楽しむ「ふらっとカフェ鎌倉」が鎌倉市内でスタートした。NPO法人子どもと高齢者が協力して「食事付き寺子屋」を目指す。高齢者や子育て世代の交流を促すだけでなく、